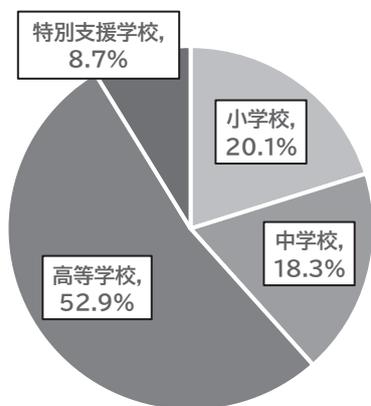


資料編

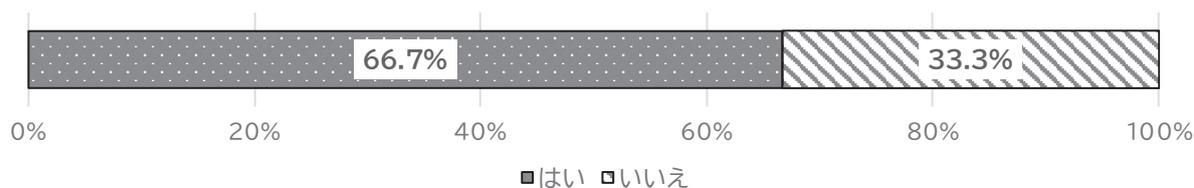
(アンケート結果)

※このアンケートは、体育の授業における評価の実態を把握するために、研究協力校及び本所主催研修の受講者等を対象に実施したものです。

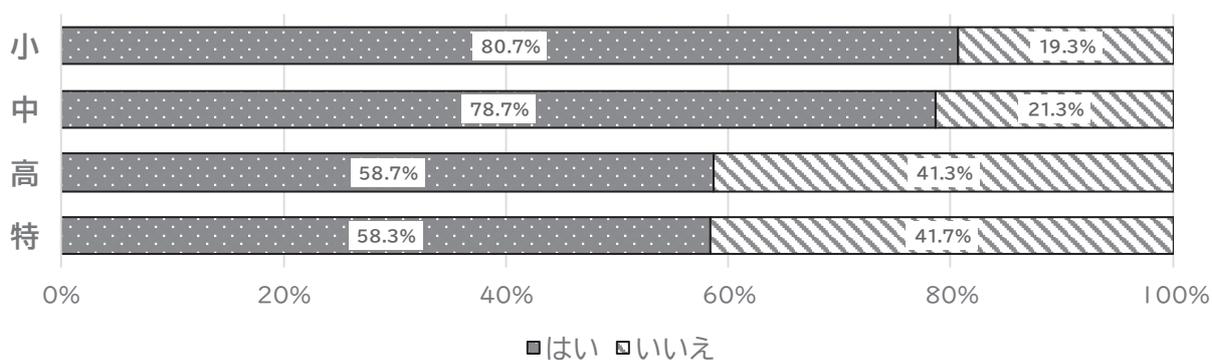
(1) 校種を教えてください。(n=412)



(2) 「体育」の学習評価について困っていますか。【全体】(n=412)



「体育」の学習評価について困っていますか。【校種別】(小 n=83、中 n=75、高 n=218、特 n=36)



(3) (2)で「①はい」と回答した方は以下の質問に回答してください。

「体育」の学習評価について、どのようなことに困っていますか。

各観点(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)について

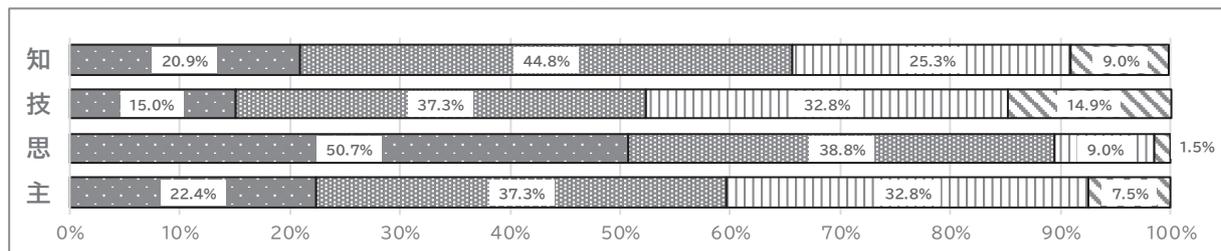
「1あてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4あてはまらない」で回答してください。

小学校（n=67）

■1あてはまる ■2ややあてはまる ■3あまりあてはまらない ■4あてはまらない

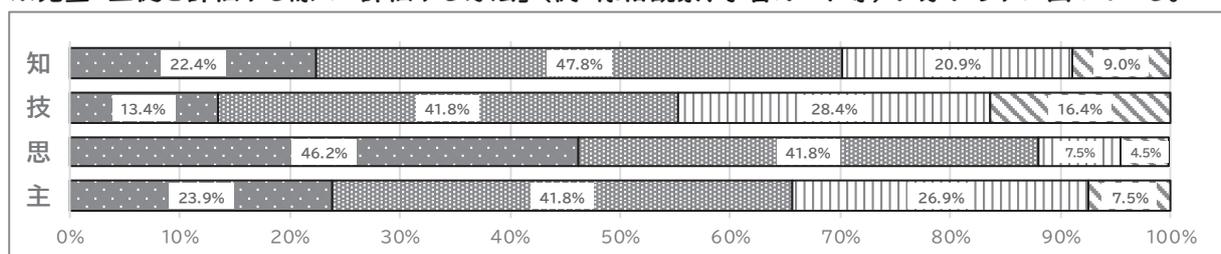
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



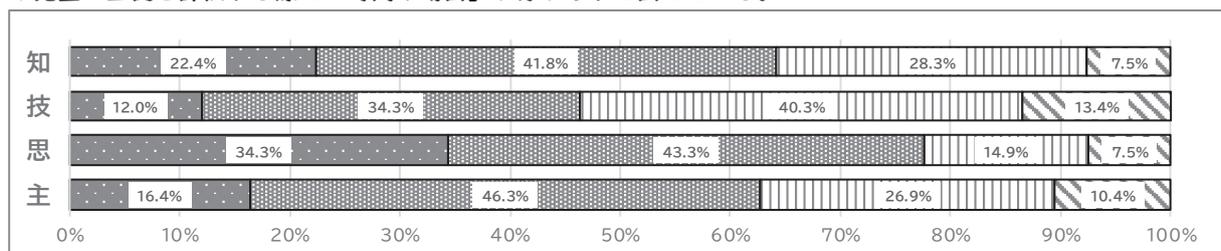
② 評価規準の見取り方（評価の方法）について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」（例 様相観察、学習カード等）が分からずに困っている。



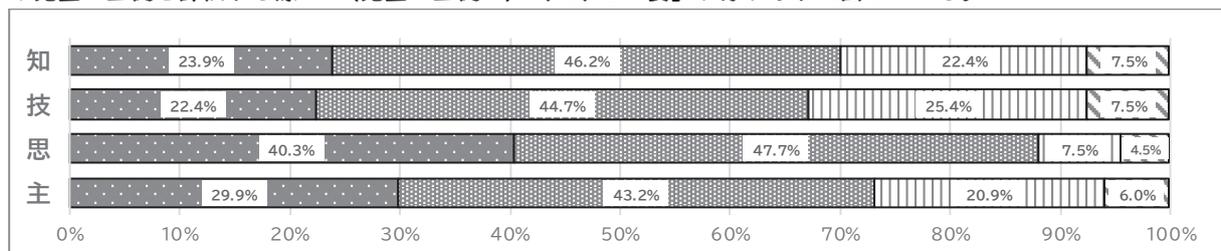
③ 評価を行うタイミング（評価機会）について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



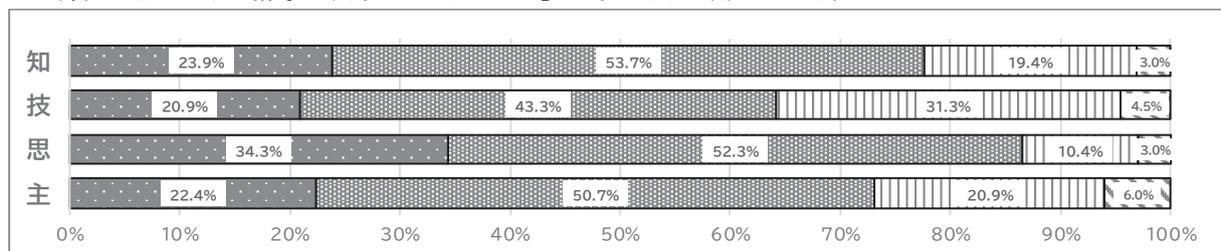
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「（児童・生徒の）A、B、Cの姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいのか」が分からずに困っている。



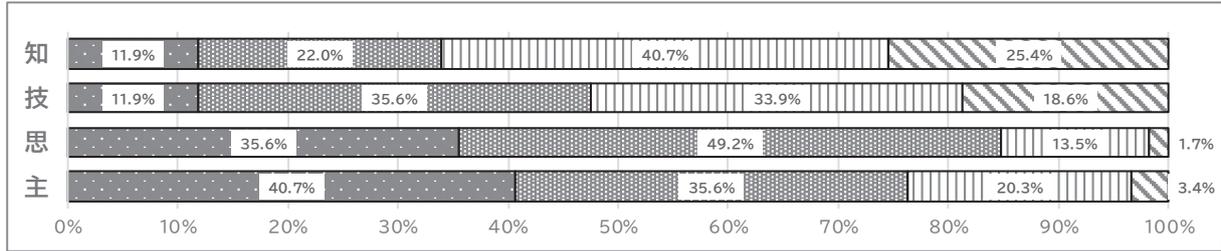
小学校において、各質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。特に、「①評価規準の作成について」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が89.5%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング（評価機会）について」の「技能」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が46.3%と最も低い結果となった。

中学校 (n=59)

■1あてはまる ■2ややあてはまる ■3あまりあてはまらない ■4あてはまらない

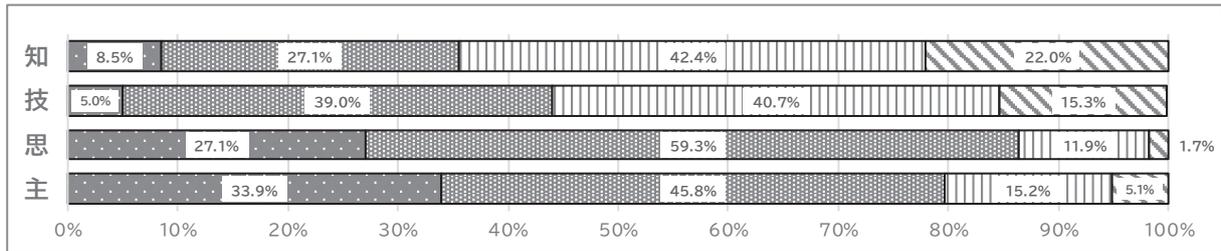
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



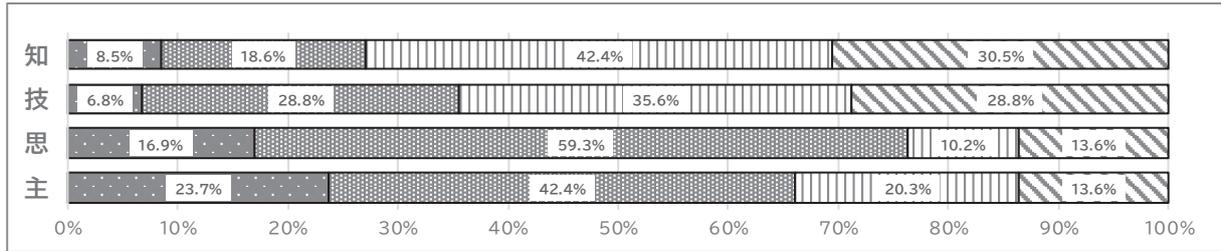
② 評価規準の見取り方 (評価の方法) について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」(例 様相観察、学習カード等)が分からずに困っている。



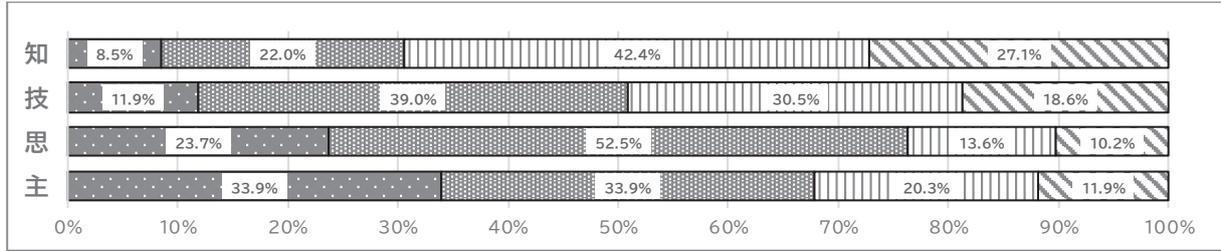
③ 評価を行うタイミング (評価機会) について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



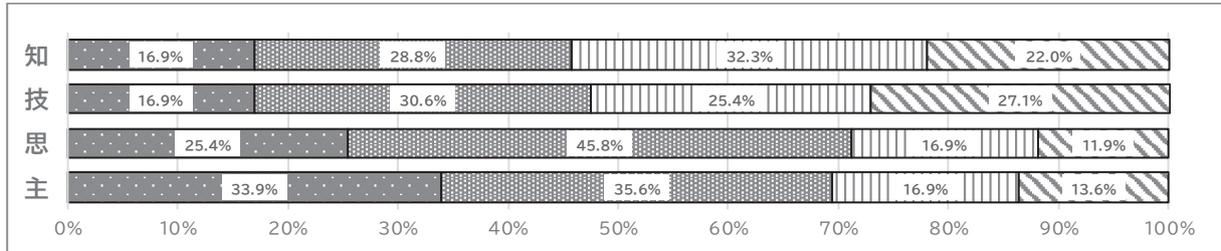
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「(児童・生徒の) A、B、C の姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。



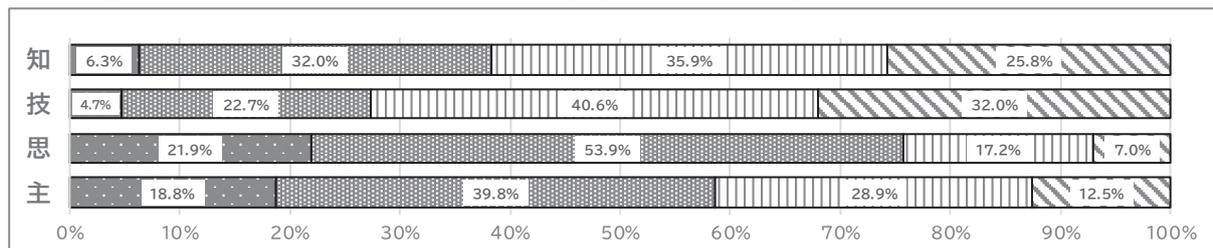
中学校において、各質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。特に、「②評価規準の見取り方(評価の方法)について」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が86.4%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング(評価機会)について」の「知識」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が27.3%と最も低い結果となった。

高等学校（n=128）

■1あてはまる ■2ややあてはまる ■3あまりあてはまらない ■4あてはまらない

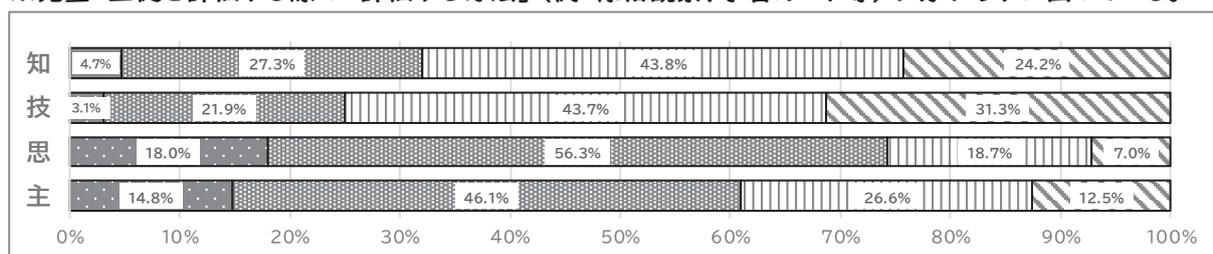
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



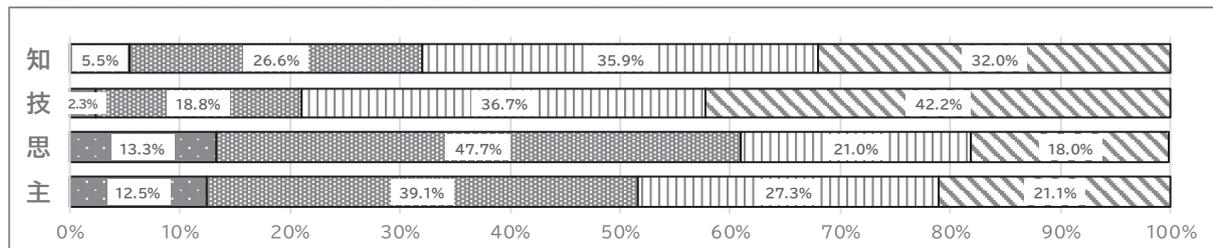
② 評価規準の見取り方（評価の方法）について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」（例 様相観察、学習カード等）が分からずに困っている。



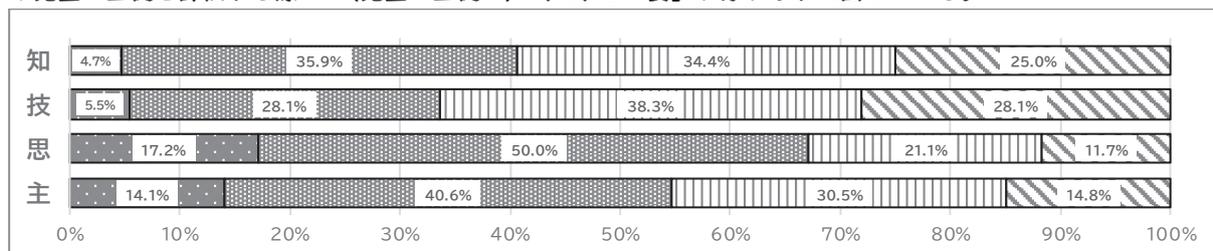
③ 評価を行うタイミング（評価機会）について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



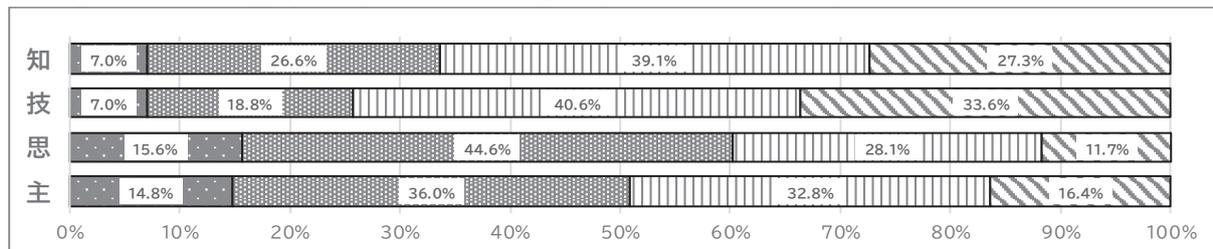
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「（児童・生徒の）A、B、Cの姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。

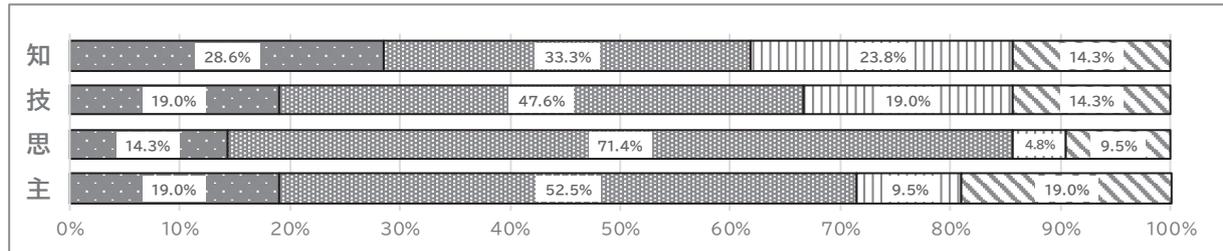


高等学校において、各質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。特に、「①評価規準の作成について」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が75.8%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング（評価機会）について」の「技能」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が21.1%と最も低い結果となった。

特別支援学校 (n = 21) ■1あてはまる ■2ややあてはまる ■3あまりあてはまらない ■4あてはまらない

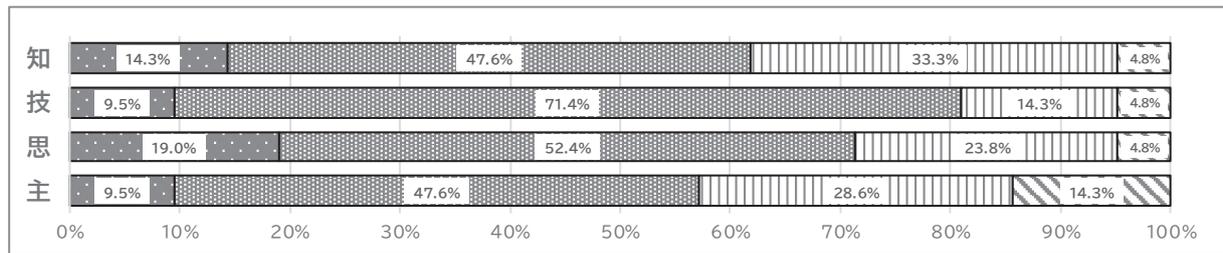
① 評価規準の作成について

※児童・生徒を評価する際の「評価規準の作り方・設定の仕方」が分からずに困っている。



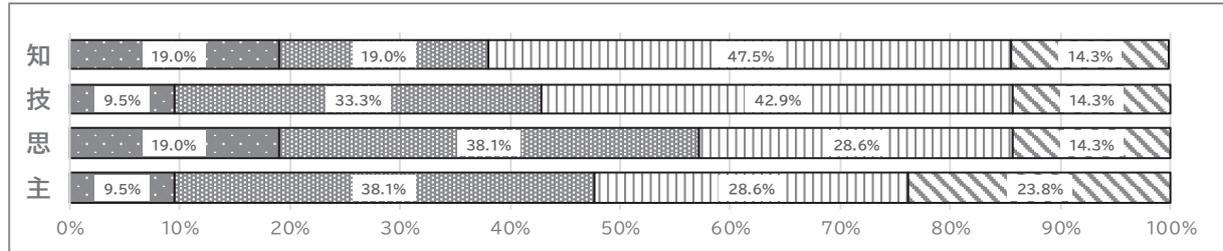
② 評価規準の見取り方 (評価の方法) について

※児童・生徒を評価する際の「評価する方法」(例 様相観察、学習カード等)が分からずに困っている。



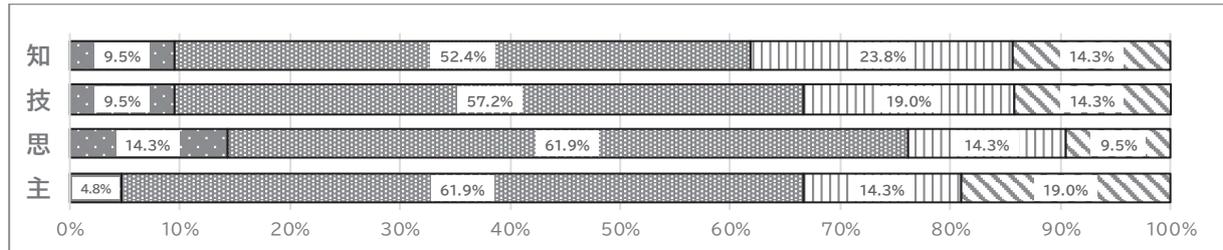
③ 評価を行うタイミング (評価機会) について

※児童・生徒を評価する際の「時間や場面」が分からずに困っている。



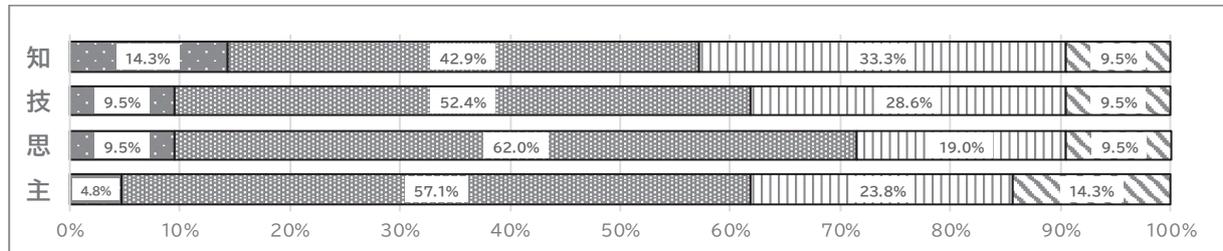
④ 評価する際の判断の目安について

※児童・生徒を評価する際の「(児童・生徒の) A、B、C の姿」が分からずに困っている。



⑤ 評価したことを次の指導へ生かす方法について

※「評価をどのように指導に活用したらよいか」が分からずに困っている。



特別支援学校において、①、③、④、⑤の質問項目の中で「思考・判断・表現」に関する困り感が最も大きかった。②の質問項目は、「技能」に関する困り感が最も大きかった。「①評価規準の作成について」の「思考・判断・表現」は、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した割合が85.7%と最も高い結果となった。一方、「③評価を行うタイミング (評価機会) について」の「知識」は、「あてはまる・ややあてはまる」の回答が38.0%と最も低い結果となった。